

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ アオキ ～

(一社) 日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

庭木の多くは落葉樹のため晩秋に葉を落とし、翌年の春の芽吹きまで葉のない状態が続きます。その間、葉を絶えず維持している常緑樹が目立ちます。アオキもその仲間で、民家の庭に植栽されています。今回はアオキを紹介します。

1 特徴

アオキは、ミズキ科アオキ属の常緑低木で高さは1～2mです(写真1)。里山の森林の下層木として自生しています。葉は光沢のある緑色で、枝も緑色をしています。雌と雄は別々の木です(雌雄異株といいます)。民家の庭ではアオキの園芸品種である斑入りのアオキが植栽されています(写真1)。

アオキは春になると雌株には雌花を、雄株には雄花をつけ、どちらの花弁も4枚で薄紫色をしています(写真2)。どちらの花も小さいものの、多くの花が円錐状に集まって花序を形成して枝先に咲かせるので、きれいです。雌花には雄しべがありませんが、花の中央によく目立つ雌しべがあります。雄花には雌しべが退化してほとんど見えませんが、雄しべの黄色い葯がよく目立ちます。

雌株は、6月頃になると小さな実をつけ、大きくなりますが、実は緑色のままで越冬し3月中旬以降になると、やっと赤くなります(写真3)。4月上中旬には赤い実と雌花を同時に鑑賞することができます。

庭木として1本のみ植栽されている場合には、

赤い実をつけていないことがあります。雄株であれば理解できますが、雌株であるにもかかわらず実をつけてないのは、近くに雄株がないので、受粉できないためです。実を毎年つけさせるためには、雄株と雌株と一緒に植えてください。また、ヒヨドリ等に食べられて実が消失し、本来はあるはずの実がなくなる場合もあります。

2 維持管理

日陰に強い樹木です。日陰になるような家屋の北側や大きな樹木の下に植栽してください。枝や葉が多くなると、適度に枝透かしをして風通しをよくしてください。大きくなり過ぎたと思えば、新芽が出る前の春に切り戻してください。極端なやせ地でない限り、肥料を施す必要はありません。

病害虫では、すす病の発生が心配されます。その原因はカイガラムシです。樹種が樹木で害虫がカイガラムシで登録されている殺虫剤で対応してください。



写真2 雌花(左)と雄花(右)の花序。それぞれの写真の左上は1つの花の拡大写真。左は2025年4月9日、右は2024年4月6日撮影。



写真1 アオキの雌株(左: 民家の斑入りアオキで2025年4月1日撮影、右: 富山県中央植物園内のコナラ林内のアオキで2025年3月31日撮影)。



写真3 民家の斑入りアオキの実(左、2025年4月1日撮影)と富山県中央植物園内のアオキの実(右、2025年3月31日撮影)。